

平成29年8月28日

釜石市議会議長 佐々木 義昭 様

会派名 清流会

報告者 菊池 秀明



会派合同視察報告書

2会派所属議員による視察報告を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

1. 視察項目：

(1)北海道宗谷郡猿払村

① ホタテ漁獲量日本一の取り組み状況について

(2)北海道稚内市

① SNSを中心としたゼロ予算での議会広報について (稚内市)

(3)北海道札幌市

① ラグビーワールドカップへの取り組み状況について

② ラグビーワールドカップ会場「札幌ドーム」現地視察

2. 視察日程：平成29年7月24日(月)～7月27日(木)

3. 参加者：清流会 菊池 秀明 平野 弘之 佐々木 聡 大林 正英
民政クラブ 松坂 喜史 遠藤 幸徳



4. 研修概要

(1) 北海道宗谷郡猿払村

研修日：平成29年7月25日(火)午前9時00分～午後12時30分

研修課題：ホタテの漁獲量日本一の取り組み状況について
(どのようにして地域漁業を復興させたか)

視察先対応者 猿払村議会

太田 宏司 議長 山村 清志 副議長

猿払村

眞野 智章 副村長 小林 智司 産業課長

阿部 真人 議会事務局長 永井 栞奈 議事庶務係

視察に取り上げた理由

ホタテの漁獲量日本一の取り組み状況について
(どのようにして地域漁業を復興させたか)

東日本大震災で被災した漁業の復活は市政の大きな課題であり、漁村の再生及び更なる生産拡大は急務であります。著しく衰退した漁村を日本一の漁村に再生させた北海道猿払村の漁業復活の取り組みを見分すべきと取りあげた。

視察先の歓迎のあいさつ

太田 宏司 議長

東日本大震災からの復興の取り組みに大変なご苦勞を感じ、敬意を表します。

本村の議員全員が5年前に釜石市をはじめ被災地を視察した折、大変お世話になりました。津波の被災地を直視し、自然災害の恐怖と防災の重要性を痛感しました。本村も大変な貧困な時期がありましたが、先人の想像を絶する取り組みに偉大さを感じております。

本日は「猿払村の漁業復活の取り組み」とのことですが、今回の視察が釜石市に有意義であることを念願として歓迎の言葉とします。

視察先の説明

小林 智司 産業課長

「漁業復活及び政策転換の取り組みと経過」について(添付資料)により順追って詳細に説明された。

【主な質疑応答】

Q. 大変苦しい時代を経て現在に至りますが、厳しかった時期についてお聞かせください。

A. ホタテ資源の枯渇し漁業で生計を立てることができず、廃業、離村者が多く過疎の貧しい漁村になりましたが、前浜はホタテの漁場として最適であること太古よりの歴史的事実であり、何とか復活させる構想を描いた笠井村長の指導の元に離村した漁業者を呼び戻し、45人ほどで企業体立ち上げホタテ増殖事業を開始して、資源復活を試みた。5年ほど厳しい時期がありましたが、放流事業の成果が好転し天然貝の大量発生と相成って水揚量が増大しました。

しかし、簡単に復活したのではなく「貧乏を見たけりや猿払に行け」と呼ばれた時代もあったことも事実です。地元に残った漁業者が浜にしがみついて耐え忍んでくれたので仲間を呼び戻すことができ、そんな彼らがいなければ今の猿払はないと思っています。

Q. 企業体を立ち上げる時の漁業者の意識についてどのようなものだったのか。

A. 皆さん、財政的には苦しい状況でなったがいろんな何とか出資金を工面して事業に参加してくれました。

Q. 釜石の漁業は震災後、養殖業を再興するためにがんばる養殖業の制度の支援をてこに復活を見込んでおりますが、期待するほどグループ化の事業拡大が進まないのが現状です。今後の課題とっております。

A. 事業の大きさはともかくとして、猿払村の隣が宗谷の漁協です。漁業環境は類似しておりますが、猿払と同様の事業形態は難しいと聞きます。他の地区はタコやカニ、タラなどいろいろな漁業があり、反面、猿払はホタテ漁業以外、何も無いのが成功した原因かもしれません。

【行政視察所感】

ニシンやホタテ資源の乱獲により著しく衰退した漁村となった昭和30年代は、漁業者の廃業する人や離村する人々が多くなり、「貧乏を見たけりや猿払に行け」と呼ばれた時代もありました。厳しさを耐え忍び地元に残った漁業者が漁協を核に自らの企業体を立ち上げ、ホタテ資源の復活、漁村の復興を成し遂げ、漁家収入4,000万円とも5,000万円ともいわれる日本一の豊かな漁村を甦らせた実績、また強い指導者のもと共同企業体を確立させたことを学ぶにあたり、日本の漁村の目指すべき姿を垣間見たような感もありました。

被災地の当市の漁業支援の柱でありますがんばる養殖漁業の在り方に大きな刺激を受けました。今後の当市の水産行政に漁業者とともに更なる努力と精進が求められ

るものと伴に、今回実感した大いなる衝撃を今後の水産振興に参考にしていきたい
思います。

猿払村研修風景



(2) 北海道稚内市

研修日：平成29年7月25日(火) 午後2時00分～午後4時00分

研修課題：SNSを中心としたゼロ予算での議会広報について

視察先対応者 稚内市議会事務局 谷原 敏夫庶務課長
議会事務局 小野寺太一庶務課 書記
議会事務局 足立 麻紀庶務課 主任
議会事務局 牧野 竜二 庶務課

視察に取り上げた理由

時代の潮流の中で文明の利器は日々進化を遂げている。
これを日々の生活に活かすのか、活かさないのかは考え方しだいである。
自治体におけるSNSの有効活用、先進事例を学び将来のまちづくりに少しでも「は
ずみ」と「きっかけ」になる事を望み視察研修テーマとした。

研修内容

稚内市議会では、2013年4月1日より、市民の皆さんに議会に対する理解と関心を持
っていただき、より身近な議会を目指すため、インターネットのサービスである「フェ
イスブック」を活用し、情報発信を行っています。

* フェイスブックとは

フェイスブックとは、10億人を超える人々が利用をする、世界最大のソーシャルネットワ
ーキングサービス(SNS)です。

利用者は実名で登録する必要があり、現実での人間関係を基にフェイスブック上で
交流をしています。※実際に登録をしなくても閲覧はできます。

フェイスブックなどのSNSの登場で、今まで情報を受け取るという一方通行であったメ
ディアが、双方向性を持つことができるようになりました。

最近では、アメリカのオバマ大統領や日本の首相官邸なども利用をし、積極的に情報
発信をしています。

稚内市議会公式フェイスブックページの役割

フェイスブックに登録をしている方は、稚内市議会のフェイスブックページで「いいね。
ボタン」を押すことで、稚内市議会が発信した最新情報を常に受け取ることができます。

例えば、議会だよりで皆さんにお伝えしている情報を、先にフェイスブックで知ること
ができます。

また、パソコンだけではなく、携帯電話からも見ることができます。

年4回発行の議会だよりやホームページと連携し、稚内市議会の日々の出来事や、市政について、できるだけわかりやすく皆さんにお伝えするため、これからも努力をしていきたいと思います。

【主な質疑応答】

Q この施策に取り組んだ背景はなにか。

A 若い世代の市民が議会だよりをあまり見ていないことがアンケート結果から分かった。若い世代に見てもらうためにこれに取り組んだ。

Q この施策で苦勞していることはなにか。

A 記事を何にするかについて悩む事がある。文章だけでなく画像や動画を添付したほうが市民からの反応が良い。

Q この施策の成果と効果についてどのようにとらえているか。

A より多くの市民に議会の中身を知ってもらうことで議会に関心を持ちそれが機運醸成となってよりよい議会になること。

Q SNSの解析機能とはどんな機能なのか。

A 閲覧者の年齢層、性別、住んでいる市区町村がグラフで見ることができる。

Q ネット環境を持たない市民へは紙媒体で配布するのでしょうか。

A そうです。

【行政視察所感】

稚内市議会では今から8年前にSNSについて議論が交わされていたとのことでした。その後、平成25年(5年前)に試行期間を経て同年、本稼動、週に2回くらいの頻度で更新されています。当市でもフェイスブックページはあるものの更新のサイクルは比では無い。生ものと情報は鮮度が重要と言われているが閲覧者からすれば情報が更新されず「ほったらかし」状態では意味がない。

人口減少したからといっても行政サービスの低下はありえず、むしろ高齢化によって高水準の行政サービスが求められる可能性があると思われる。

「文明の利器は上手に使ってなんぼのもの」と捉える。

自治体の手腕が試されているのではないかと考える。

稚内市研修



(3) 北海道札幌市

- ① ラグビーワールドカップへの取り組み状況について
- ② ラグビーワールドカップ会場「札幌ドーム」視察

研修概要 : 研修日:平成 28 年 7 月 26 日 午前 9 時 30 分～午前 10 時 35 分
視察先対応者 札幌市スポーツ局 白石 将也主査、田中 仁 氏
札幌市議会事務局 木村 友哉 氏

視察先選定理由

ラグビーワールドカップ(以降、RWC)は、世界三大スポーツイベントのひとつと言われておりアジア初開催となるビッグイベント。RWC2019 日本大会では、世界一をかけて 20 チームが 9 月から約 7 週間にわたって日本各地の会場で 48 試合行う。試合会場には札幌市(会場: 札幌ドーム)が選ばれており、札幌市の取り組みについて伺う。

配布資料

- (1) 事前質問に対する回答書
- (2) 札幌市の概要_2017 年版
- (3) 札幌の観光 (平成 28 年度版) ほか

視察先の説明 (札幌市スポーツ局 白石 将也主査)

「事前質問に対する回答書」について(添付資料)により順追って詳細に説明された。

【主な質疑応答】

Q1) 立候補理由は

A1)

- ・ 札幌ドームが多目的利用であって、世界一流のスポーツ大会の開催を目指した。
- ・ 国際大会 (オリンピック、パラリンピック等) への対応スキルの積み上げ。
- ・ サッカーWC日韓大会 2002 開催経験も有って立候補しない選択肢はなかった。

Q2) 試合会場に札幌ドームが選ばれてから現在までの取り組み状況について

A2)

(1) VDP (venue development plan) について

- ・ 2016 年 4 月にRWCリミテッドの視察があり、以下の課題を指摘される。
- ・ 競技場のサイズについて、5m の外周区域を確保すること。
- ・ ホヴァリング式ピッチの上に 17m のポストの差込口を据付けること。

- ・ 会場メインのロッカールームAについて使用できるようにすること。
- ・ 照明について、RWCの基準を満たすこと。これらの課題解決にむけて、調整を現在進めているところ。既に、照明については工事に着手しており今年度中に完了する予定。

(2) 試合日程の調整に関すること

札幌ドームは、野球の北海道日本ハムファイターズとサッカーの北海道コンサドーレ札幌の 2 つのプロ球団のフランチャイズ球場となっており、そのほかのイベント開催については日程的な制約がある。RWC 開催日については、両球団と協議を行い組織委員会に要望を出している。

(3) 公認キャンプ候補地の状況

2016 年 12 月 22 日 応募申請書を組織委員会に対し提出。以降数回組織委員会およびRWCリミテッドの視察が実施されている。正式に公認キャンプ地として承認されるのは夏以降。9 月末に試合スケジュールの発表がされるので、その後、各国からの視察等動きが活発になると考えている。

(4) 広報について

これまでRWCのPRとしては、日本代表戦のパブリックビューイングや写真展などを行っている。また、ラグビー普及の取り組みとしては、小中学生を 対象とした放課後ラグビーの取り組みなどを行っている。また、社会人ラグビーのクラブチーム「北海道バーバリアンズ」の所有するグラウンドや宿泊の施設が、男女のセブンズラグビー日本代表の合宿を受け入れており、その都度激励や表敬を行い、ラグビー全体をPRしている。

Q3) 試合会場整備にかかる大会実施までの費用について

A3) 会場整備にかかる仮設設置や諸室準備に、2018 年度 81,000 千円、2019 年度 215,000 千円の費用を見込んでいる (2002 年に行われた FIFA サッカーワールドカップをベースに積算)。また、このほか 2017 年度に、札幌ドームの照明 LED 化とあわせてRWCの基準に合致するよう照明改修を行っている (480,000 千円)。また、札幌ドームは、2020 東京オリンピックのサッカーの試合が行われる予定であり、照明改修やドーピングコントロールステーション等についてはオリンピック基準も確認しながら仕様を定めている。

Q4) 市民の盛り上がりについて

A4) 開催を盛り上げるイベント計画について。

市民の盛り上がり感はまだまだ少ない。試合日程が決まって、内容が具体的にになると同時に、盛り上がりも出でるだろうと考えている。今後開催を盛り上げるために、大会の節目ごとにイベントを行う。(マッチスケジュール発表、2年前、1年前、100日前など)

- ・ 日本代表戦のテストマッチのパブリックビューイングを実施する。
- ・ 夏祭り(ビアガーデン)やオータムフェスト、雪まつりなどの多くの人が集まるイベントでRWC札幌開催をアピールしていく。

また、ラグビー普及の取り組みについては、

- ・ 小学校へのトップリーグ選手の派遣(スクラム先生)
- ・ タグラグビーの授業での実施など、これまで以上に北海道ラグビー協会と連携し実施して行きたい。

Q5_1) 大会当日の警備や交通安全対策等の検討について

A5_1) 札幌ドームは、日ハムやコンサート等で、3万~4万人規模のイベントの績を積んでいる。交通や警備について基本的には実績に応じた手配になると考えており、RWCに特化して特別に考えることは極めて少ないと考えている。

Q5_2) 開催費用について

A5_2) 札幌市の中長期実施計画であるアクションプランでは、2016年から2019年まで、8.5億円の費用を計上している。これは、主に開催都市分担金や宝くし負担金などの組織委員会と開催自治体の役割分担が明確な費用を計上したもの。それ以外の前述した会場整備費や会場運営費等を含めて、内々の試算では15億~20億程度かかると考えている。これについては、役割分担や内容など不明瞭な部分があるため、今後も組織委員会と協議検討を進め具体化する所存。

Q6) 現在の課題は

A6)

(1) 機運醸成について

札幌市は、トップリーグのチームがなく、トップリーグや大学ラグビーの試合も年2~3回程度しかないため市民にラグビー文化が定着していない。今後どのように、市民にラグビーに興味を持ってもらえるかPRが課題。今年度の広報関連予算は4百万円ほど。

(2) テストイベントについて

札幌ドームでは一度もラグビーの試合を開催した実績が無いので、競技運営や会場運営の確認としてテストイベントの実施を組織委員会に求められている。RWC開催日の調整と同様、テストイベントをいつ実施するかが課題。また、テストイベントとして実施可能な対戦カードの検討も課題。

(3) 海外観光客の取り込み

現在も、海外観光客向けの4カ国語パンフレットや、「札幌いんふお」という多言語に対応した観光地案内のスマートフォンアプリの運営等さまざま行っているが、平成28年度の外国人宿泊者数は約209万3千人で、92.8%をアジアで占めている。RWCに向けては、ヨーロッパやオセアニアのラグビー先進国からの観光客を取り込むことが必要と考えており海外観光客誘致の方法に一部課題が残っている。

② ラグビーワールドカップ会場「札幌ドーム」視察

2001年に開場した札幌ドームは、札幌市と道内財界各社が出資する第三セクター、株式会社札幌ドームが運営管理を行っており、日本で唯一の天然芝サッカー場移動方式「ホヴァリンクシステム」によりサッカー用天然芝グラウンドと野球用人工芝グラウンドの併用が可能となっている。日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)北海道コンサドーレ札幌のホームスタジアム、日本プロ野球(NPB)パシフィック・リーグの北海道日本ハムファイターズの本拠地球場として使用されている。また各種国内外イベントにも利用されており、ほぼ100%近い稼働率を誇る。

【行政視察所感】

札幌市は既に年間192万人の外国人宿泊数を記録しており(平成27年度実績より)、市内の観光客受入体制はあらゆる面で整備され尽くされており万全である。

しかしながら、野球、サッカー、さらには新興するバスケットボールのプロチームをホームタウンとして抱えており、ラグビーの市民浸透度は最下層レベルである。この環境下での気運醸成には、担当職員の配属数等からも(専任担当者2名、2017年度の普及啓発費4百万程のみ)苦慮しておられる様子が垣間見られた。

当市は、RWC2019開催に向けて釜石市鶴住居復興スタジアム(仮称)を核とする環境整備を推進しているところであるが、現在もクラブチームを抱え新日鐵時代の7連覇を支えたサポーターも健在。拍手をもらうのは競技者だけであるが、その影には沢山の人が関係していることが体感できており、札幌市の苦慮されている気運醸成には相互協力できる処があると思料する。

RWC2015 イングランド大会における日本代表の活躍で、国内では空前といってよいほどのラグビーブームであったが、トップリーグの観客は落ち込みテレビに楯円球が映る機会も減っている。開催都市間の連携を企図しRWC2019の成功に寄与したく、ラグビーの聖地・釜石を国内外に向けて発信し続けるとともに、スポーツを通して交流人口を増やし住民が生涯活躍できるラグビーのまちづくりを実現したく願う。

以上

